(日刊)　(明治四十一年七月四日 第三種郵便物認可)　明治四十一年九月九日　京城新聞　(水曜日)　第五十七號



# 京城新聞

## ●忠州旅行記(五)

三十日忠州　濟風

日は早や淸安の禿山に入り殘る頭淸安の守備隊へ着いた、爲救院の隊長から貰つた名刺を出して一夜の宿を請ふた、伍長が出て途中の困難を察して、御拂いなくば御泊りなさい共の代り食物等は口にあうやうなものはありませんと云ふ、いや決して其んな事は御心配はいりませんと、先づ强硝的に出掛けたすると早速兵士に洗足の水を持つて來いと命じた、一行は地獄で佛と云ふ有樣で遠慮なく室に入つた、家と云つても韓人屋の混凝間である、其れにしても軍隊の事で衛生は頗る行届いて居る、庭は廣く遠く青々とした山を眺め麓の村々が朧かに炊烟の立昇るのが見へる、驛宿に泊る馬は彼所此所に繋ふ、韓人の歌か肉かに聞へて途中の勞れに氣がうつとりとなる、間もなく食卓が出された、人の御馳走をこんなものであつた等云ふは頗る失禮の云ひ分だが、然し僕は同情を以て軍隊生活の如何なるものであるかと云ふ事を紹介する積りで其の夜の御馳走を書き立て、●●●●●●●●●●●●●の分らぬ、京城の御婦人特に京城婦人會とか云ふ虛榮の權化達に申進べやう、飯は引割麦分分を云ふか然し殆んど麦許りである副食物は軍隊若芽とか云ふ臭ひ若芽の醤油汁である、贅澤な口なら到底食へたものじやない、其れを地方に居る兵士は唯一の馳走と心得ねて居る、此の二品が命を捨てゝ韓國に駐屯して居る軍人の御馳走である、目には何等樂しきものもなく、隊に居ても樂しく慰安するものもない、眠りを覺ませば銃劍をつけて、山谷を馳け廻り征伐の事に從事せなければならぬ、此の若芽汁と麦飯とを見た時は僕のやうな世の荒波に翻弄されたものは感極まつて唯涕が出る許りである、慈善會だの何だのと、虛榮の夢に浮されて暗闘猜疑互にしのぎを削らんよりは、討賊隊に對して慰安の方法を講せられては如何に御座るかな、僕不幸にして婦人會が此等に對して相當の慰安方法を講せられたのを聞かない、若し現になしつゝあると云ふ事であれば、僕は深謝謝罪するに憚らず少々云ひ過ぎかは知らぬが、若し僕にして忌憚なく婦人會なるものを評せしめなば、京城婦人會とは婦人の道樂と虛榮の集會と云はうと思ふ何故かと問はゞ數百萬言口を突いて出づる丈けの材料がある、夕餉が濟めば、よも山の話に移る、先づ話の切れ間なく續くは暴徒討伐の事である　夜も漸く更けたので、兵士に床をとつて貰つて寢た明日は馬があるらしい、十里の行程馬で行くかと思へば、何となく嬉しい感じがする忠州と云ふ處はどんな處であるか頻りに[illegible]付かぬ空想を抽いて見る、其内にうと／＼となつて眠りの醒めた時は夜も明け近くなつて居た

## 讀者文壇

### 戀

霞子

百鳥の花に囀るをきゝてはおたくけき戀にあこがれ千草に啣く虫の聲をきゝてはあはれふかき戀をかこつはなべての人の情にそありける、生きとし生けるもの、誰かは戀にあこがれ誰かは戀をかこたざる戀は人の生命也戀は社會の聯鎖也戀を語らざるものは人にあらず、戀を知らざるものは生物にあらざる也

戀せずは人は心もなからましものゝあはれはこれよりぞしる

戀は世道を容し人心を和ぐ戀なければ社會は一日も存在し得ざるべし、されどもこの戀にして狂せんか或は一身を害ひ、この戀にして亂れんか或は一家を亡ふ古來城を傾け國を傾くるの大禍、所以なきにあらざるなり、アゝ戀はなどてかくも耐へ難なるきざるべからざるか

## (文苑)

祝京城新聞發刊　孤山 小史

慨然投筆氣崢嶸。半島風雲鶴唳聲。
想見丹心熱於火。江湖齊仰老先生。

初夏偶成

少小離家且浪遊。浪遊此味轉堪愁。
可憐卅歲蹉跎夢。裂帛一聲歸計悠。

子 雅

蜀魄千年空欲迷。聲聲染血更悽悽。
天涯遊子酒醒處。半在雲中曾月啼。

雨後偶得

嫩涼一味雨餘山。半捲簾疏詩意閑。
傾耳桃聲東何出。隔欄溪谷作潺湲。

[illegible]

人世悲憐無限情。茫茫天地一書生。
身如尺蠖□堪笑。只有虛名日暮成。

## 落語　●酒專賣

紅毛子

李「エ」伊「戰場の儀は是非なし歟」李「人間何んでも諦めが肝腎だ」伊「ア、早く來れば好いな、喉がイラ／＼して來た」集配八「小西伊三郎さんと云ふのは此方ですか」李「アゝ來た」伊「アツ吃驚したそんな聲を出しッこなしさハイ／＼小西伊三郎は手前さ」集「廿圓のを一升と云ふ註文をしなすつたのは確にお前さんですか」伊「忌な事を云ひなさるね確でねにもチャンと規則通り前金に納めて斷う是れだ立派に領收書が取つてあるんだ」李「伊三公怒んなさんな一升と云ふ屋體骨でないから配達の方が一寸駄目を押して見なすつたんだ」伊「屋體骨で無ねッて家は穢からうと大家の家だ己の知つた事は無ね」李「コレサ德利を見たばかりで管を巻いちやア氣が早過ぎるお前さんわしは家主ですがね大丈夫ですよ此の男が馬鹿に氣ッ腿の好い處を天だの天井の鼠だのいろ／＼なものが憐んでね入金があつたもんで安宅い群慶ちやアないか」期い思出と云ふ奴で一升ね願ひ申した譯さ受取を證據に置いて行つて下さい」集「然うですかイヤ何うされた氣の毒樣でしたでは何卒是れへ御印を認て好いんです」李「オイ印を捺して上げな」伊「チヨツ二十圓出して料まで取られりやア世話は無ね」集「ヤた世話でした又頭ひます」伊「箆棒め是れで又一升も誂へて見ろ何かの嫌疑で拘引られらア」伊三さん大怒りで。李「先ア／＼それ程怖ろしい酒が餘腹飲めると云ふのは男冥利に叶つた仕合せだ怒んなさんな／＼オヨウ此奴は見事な鑑だが待てよ此の李鑑を返すのだらうな」伊「返さなくッて何うするもんか壞れた時の用心に廿圓の外に保證金が別に一圓入れてあるんだ」李「一圓かだがそれは好いとして配達の云つた事で己に當り散らしては困るサア機嫌よく飲らう」口には使はれるで李兵衛さん職業に掛かる端端門口から、女「伊三さん何うも御馳走樣」女「只今は有難う宿も大喜び」男「伊三さん濟まねわなあんな好い酒を貰つてよ己ア久し振なんで二ッ三ッ食るともうボーッとして了つた」女「伊三さんれ氣の毒ね幾ら旦那だつて軒別に奢るなんて氣前が好いよわたしが獨身なら打捨つちやア置かないが」女「二人身になりやア伊三さんだつて斯樣に奢りやアしないどさね紀れ嫁が第一不承知を云はアね」婆「伊三さん只今は御馳走樣件がれ禮に上るんだけれどた降りだもんでれ酒の匂ひがした日には居ても起つても居られめねッて彼奴め何處へか飛んで行ッちやつたよハ、羨ましいね旦那さん一體あの鼠は何うして捕つたお前身者の饌に鰹を買つといて丹念に鼠を捕るなんて容易じゃは出來ない豁だよ是れが出世の端緒なんだね其の工台ちやア今に建前に濁酒の飲めるやうな立派な棟梁におなりだよ」女「本當だねわたし達も精出して鼠でも捕めやう鼠路の内臓なんぞ百年したつて亭主に寢酒一杯飲まされやしない」何うも大騷動でそれが漸く靜まると伊三さんも機嫌が直つて、伊「刺身ぞ、煮肴が來るんだが何うしやがつたか」李「怖ろしく匂ひが膽へ滲みる何うだらうチヨッピリ冷でと云ふ譯には」伊「先アれ待ちなさい私だつて喉から手が出る程だけど空ッ酒は嬉しくねねし」李「贅澤千萬な勿體ない事を云ひなさんな己なんぞ死ぬ迄に一度で好いから一升の配達證明書へ判だけでも取られて見たいと思つて居るんだ」伊「それでも先アれ待ちなさいよ突然飲つて腹の虫を驚かせるよりは匂ひで少し馴らしてから段々本物を入れた方が必ど體に障りません」李「情ねねア、嗅ぐまいと思ふほど匂ひやがるこりや堪らねわカラクリにあつた給ちやアねわが飯の茶碗から火の出る格だ」ツクア／＼して居る處へ、男「お待遠さま」李「ソラ來たア、」伊「留息は醉い」李「御苦勞／＼時になア魚男「何時です」李「今よ中等を一升貰つた者が此の町内にあると云つて」男「エ、その事ですかイヤ大した入もあるもんだつて」李「然うだらうそれは己の店子の家だ變の伊三郎のれる家で買つたのよ」男「へエ町内の名譽ですね酒を一升買ふ者があると大抵の町では名譽になると云ふ騷ぎ丸で號のやうな成行です」伊「ア、好い匂だ、堪らねわ此の心地で仕生したい」伊「味を忘れてゐた酒に邂逅つて見ると何んだか少し旨くねわやうだこんな味の物だッけか」李「巫山戲なさんな一升金二十圓世だ角から旨からう少しも文句を云ふ處は無ねア、腹の中が引繰り返る」伊「二十圓出した身になると何んだか餘まり嬉しくねわ」李「鼠小便變して銘酒となるだ賢を云はずに飲んだり／＼」伊「鏡の冥利に飲むと爲やう」獻しつ押へつ二人してグビリ／＼と飲りましたが久し振に五合宛も飲んだ制には醉ひません、伊「もうた終りだが薩張り利かねわア、詰まらねわ」李「エ、イ然うでない惡醉のしない處が官營の有難さねれ酒よのが價値ならば勝つた飲んざア飽でも一尾四五十兩が物はあるわさ」伊「忌に專賣局の肩を持ちなさるね内々月給でも貰つて居やアしねわか」李「何とも云へねわ」何んの彼のと云ふものゝ兎に角一升明けたのですから二人とも好い心地になつて其の晩早くから寢て了ひました。夜半近くなると二人が二人腹の工合が惡いと云ふ始末中にも李兵衛さんは寢付かれぬ程ですから夜が明けると早々近所のお醫者に診て貰ひまして　李「別に惡い物を食べた覺はありませんが昨晩些と飲み過ぎましたやうでへエ久し振で飲みましのに加之にガブ／＼飲りましたから酒毒かとも存じますが如何で御座いませう」醫「左樣、僕の診た處では水中りのやうだが」李「エ、水中りらしいッてイヤ驚いた然う云へばあの酒は水つぽかつた冗戯ちやねわ廿圓の酒で腹を下して堪るものか此奴ア默つて居られねわ」醫「ハア、安い酒を多量に飲んだですか道理こそ」李「道理こそだつて、酒を飲んで水中りがするに極つてゐるのは亂暴だア、切ない」醫「一等を飲まんかつたが、此方の不覺ですなア」李「何アに、うんな奴があるもんで一番掛合に及んでやる水道税は拂つてゐるのに別に一升幾らで水を飲まされて詰まるものか。」李兵衛さん烈火の如くなつて賣下所へよろ／＼と飛込んだ　李「中等の酒を飲んで腹を下しては堪らねわ何うして下さるそれとも酒に水ッ氣はない中る筈はないと云ひなさるか此方には醫者と云ふ證人が居る」所長「イヤ、酒の爲めでないとは云はんよ」李「何んだッて」所「そのやうな議判は毎日おやから決して否認はせんがそれは安物を買ふからぢや」李「安物だつて、高物だつて酒は酒だ若し水中りで死にでもしたら何もする心算だ」所「國の爲に死するは國民の本分ぢやないか高い料金を拂ふて酒を飲むのも既に御國への忠義である」李「馬鹿を云へ金は兎もあれ酒で死んで詰るもんか若も此のまんまになつたら何うしてくれる」所「それは案じる事はない、招魂社へ祀る。」





京城新聞

# 帝國議會と韓國問題

民長官選令の發布せられてより既に二個月に亘る、其間に於ける在韓邦人の輿論、各民團の撤廢請願、在韓新聞及祖國新聞紙の反對、其不當なる理由を論難するに理盡し意盡くしたり、穩和なる公正の手段は既に盡くして餘りあり、然るに當局者は更に顧る所なし、何ぞ民意を汲むの冷淡なるや、其間御用紙をして殆ど常識を失せる言辭を弄さしめて在韓邦人には未だ自治の能力なしと放言せしめ、條理を盡さゞる挑發的論議をなし、一點民情に溫なる態度なし、而して口に官民融和を說く、何ぞ言行の相反することの甚だしきや、[illegible]しからずや、當局者の頑強にして反省せず、在韓邦人如何に溫和なりと雖も、權利の侵害を受けて此儘默過すべけんや、此上は祖國同胞の輿論に訴へ所謂天下の公判に俟たざる可らず、幸に祖國の同胞は既に其不當を認めて大に聲援せらるゝの形勢となれり、進步黨の如きは黨議を以て反對せんとし、政友會、大同俱樂部、猶興會も其不當を鳴らし共通問題として帝國議會に提出すべしとの說あり、此問題の如きは黨派の問題に非ざれば、苟も民權の尊重を伺ふものは何人と雖も首肯すべきなり、而して極て單純なる問題なり、何人と雖も其理非を辨ずるの問題なり、之が撤廢に對して反對するものは恐らく當局者の外あらざらん、帝國議會の審判は如何に判決を與ふべきや、桂内閣は之に對して如何なる態度を採る可き乎、事は一民長官選問題に過ぎずとするも其關する所は頗る大なり、帝國々是の遂行に大關係を及ぼすべき問題なり、帝國の輿論は如何に大陸經營に從ふ移住者に對して聲援する乎、帝國政府は大陸移住者を如何に司配すべき乎、民長官選令の撤廢如何は大陸移住者に對する帝國の輿論、帝國政府の態度を明瞭ならしむるの問題なり、決して一民長選任の爭に止らざるなり、余輩と雖も對韓經營の多事なるときに於て官民相爭ふて同志打の醜態を韓國民に見せしむるの得策に非ざるを知る、然れども權利を蹂躙さるゝのみならず、以上述るが如き今後の大陸經營に大關係あるを以て飽迄此問題を解決するの必要あるなり、加之是を帝國議會の問題となし祖國同胞の注意を喚起するに於ては、韓國に於ける諸種の問題を提出するの魁として力あるを信ずるなり、在韓邦人に不利なる法令發布さるゝ場合之が撤廢改善を請願するも容れざる時は勢ひ帝國議會に提出して輿論の判決により政府に迫るの外なければなり、民長官撰令撤廢は理非明白帝國議會提出の先驅として最も適當の問題ならずや、

## 統監府附武官の廢止

統監府附海軍武官交替の何ぞ頻々なる、先には宮岡少將鎭海[illegible]に轉じて岩崎少將來りしが、未だ一歲ならざるに岩崎少將亦他に轉じて某少將來らんとす、而して交替は單に海軍武官にのみ止まらずして陸軍武官村田少將も遠からずして他に轉ずるの說あり、余輩熟ら思ふに元々統監府に武官を置くは無用なり、ソノ之を置きしは伊藤統監の虛榮の爲のみ、閑暇の相手のみ、馬車の同乘のみ、而して硬骨を以て名ある我海陸將官が[illegible]老の茶呑友達となりて無爲の消光を甘んせざるは蓋し當然なり、交替に次ぐに交替を以てす、余輩は寧ろ統監府附武官の廢止を望む。

## 第一銀行預金

[illegible]られありとは眞か、若し眞なりとせば韓國金融界に取つて由々敷大事なり、何となれば韓國の金融現狀は七百萬圓は扱置き百萬圓の除力を有するものに非ざればなり、第一銀行は云はん資金は常に水平を求めて流ると、而れども余輩寡聞にして未だ水の低きより高きに流れたるの例を知らざるなり、第一銀行の理事者余輩の惑を解くに吝ならざれば幸甚。

東京電報

## ▲加藤氏と親任式

加藤高明氏明後日英大使の親任式ある筈(七日發)

## ▲井上侯經過良好

昨夜井上侯の病態は經過益々良好頻に談話を望む模樣なるも腦及神經に刺激の恐ありて成可室内に緘默を守れり

## ▲京釜代償公債

歐米金融緩慢の結果公債の買入をなすもの多く數日前より京釜代償公債を買入るものあり(以上八日發)

雜報

## ●曾禰副統監の參內

曾禰副統監には昨八日午前十一時國分秘書官を隨へ德壽宮に參內し太皇帝に謁見し御誕辰祝賀言上せり

## ●大臣次官其の他の參內

昨日太皇帝の萬壽節に付各大臣次官及各皇族は午前十一時曾禰副統監と共に德壽宮に參內し敦德殿に於て拜謁仰付けられ後一同に酒饌朝鮮料理を賜ひ退出す

## ●參與官會議

昨日午前十時統監府樓上に於て參與官會議を開き石塚、岡、倉富の各參與官及木内氏代理中村局長出席せり

## ●大臣會議休會

昨日開會さるべき筈の大臣會議は臨時休會せり

## ◎京畿道郡守會議

去る五日より向ふ十日間の豫定にて水原に於て京畿道郡守會議を開催せしに付内部より[illegible]警務事務官警務主事列席のため出張を命ぜられ昨朝出發せり

## ●海州の警察署長會議

昨七日より海州に於て黃海道の各警察署長會議を開き觀察使道書記官警察部長地方裁判所長同檢事長等出席し地方警察改善に關する諸種の問題を議せり

## ●萬壽節

昨日は太皇帝の誕辰日たる萬壽節に相當せしかば皇帝には皇后と御同乘にて午前八時三十分敦化門出御、德壽宮に行幸父皇と御對顏陳賀ありたる後種々御物語りありて午後五時三十分昌德宮に還御あり又各大臣宮内高等官等も同時刻より陳賀の爲め參內するもの非常に多く大漢門附近は一時雜沓を極めたり各官衙及び諸學校銀行會社等の如き何れも業を休み市中一般に國旗を揭揚し祝意を表したり尙ほ此日德壽宮に於ては外國領事團等の陳賀は受けざりしかば外國人の參內せしものは一人もなかりし又各學校生徒は大漢門前にて太皇帝の萬歲を唱へたりと云ふ

## ●萬壽節と仁川府尹

昨日は韓國の萬壽節なるを以て仁川金府尹は信夫理事官富田民長等の祝賀を受けたり

## ●間島の施設

淸國の機敏、日本の立遲

間島に於ける韓國人の移住數は統監府派出所設置以來漸次增加して最近に調査に依れば間地現住總人口約十万中其七分を占むといふ統監府にては目下專門技師をして大豆煙草、米穀其他農耕に關する調査を進め居れるが今日までの成績にては地味中々に肥沃にして一般農業は頗ぶる有望なり在住韓人の多くは農業に從事し居れるも交通の不便は勢ひ斯業の發展を阻害するの傾向あり然るに一方淸國側にては早くも此點に着眼し間島邊務督辦吳祿貞氏東三總督の旨を受けて奉天より通化經由帽子山に達する道路改築及び吉林より間島を通過して渾春に至る新道路の開鑿を企畫し前者には七百名の工兵、後者には三百名の苦力を使役して既に該事業の一部に着手し更らに電線を渾春より長白山間に架設せんとし其他警察、軍政、移民に對する改善施設を合せ約二百萬兩を投下する見込にて前記道路工事以外の事項に就き目下設意調査を行ひつゝありと云ふ

## ●藏相の示達

別項記載の如く農商工部大臣は東洋拓殖株式會社韓國側創立委員に對し同會社設立事務に關しては日本國政府が其の任命したる委員に示達したる事項を遵守すべきことを示達せしが今大藏大臣が日本側創立委員に示達すべき條項を聞くに左の如し

第一條 明治四十一年法律第六十三號東洋拓殖株式會社法を遵守し韓國政府の命じたる創立委員と共同して東洋拓殖株式會社設立に關する一切の事務を處理すべし

第二條 委員會の議事規則及び委員事務章程は委員會に於て之を定め認可を受くべし

第三條 幹事委員及び幹事を置きたるときは其の氏名を屆出づべし

第四條 書記其の他の使用人を雇入れたるときは其の氏名及び給料を當省理財局へ通知すべし

第五條 事務所を開設するときは其の位置及日時を日韓兩國政府に屆出で官報及び新聞紙を以て之を公告すべし但し委員會々場を事務所以外に設置するときは其の位置をも併て屆出で且公告すべし

第六條 東洋拓殖株式會社定款を議定したるときは各自之に署名捺印の上日韓兩國政府に對し關係書類を具して其の認可を稟請すべし但し韓國政府に差出すべき定款其の他の書類は謄本を用ふることを得

第七條 前條の認可を受けたるときは株主の募集に着手し其の旨を官報及び新聞紙を以て公告すべし

前項の公告には左の事項を記載し且豫め認可を受くべし

一 日韓兩國政府より定款の認可を受けたる旨及び其の認可の年月日

二 株式申込人に定款を閲覽せしむると

三 株式申込の方法期日及び場所

第八條 株主の募集終りたるときは日韓兩國政府に對し株式申込證を差出し東洋拓殖株式會社設立の認可を申請すべし

前項の株式申込證は謄本を用ふることを得

第九條 創立總會を招集せむとするときは其の日時場所其の他の手續を定め各申込人への通知案を具して認可を受くべし

第十條 創立總會に於ては第十三條に揭ぐる東洋拓殖株式會社の負擔すべき設立費用金額及び監事の報酬を議定すべし

第十一條 創立總會終りたるときは直ちに議決の要領を具し日韓兩國政府に屆出づべし

第十二條 東洋拓殖株式會社總裁に事務引渡を爲したるときは日韓兩國政府に其の旨を屆出て且官報及び新聞紙を以て公告すべし

第十三條 東洋拓殖株式會社設立に關する費用は金七萬圓を以て限度とす

前項の費用は一切日韓兩國政府に於て之を支辨し追て同會社設立の後之を返納せしむるものとす但し其の金額は創立總會前當省理財局より之を通知すべし

右の如くにして委員より屆出で又は認可を受くるは總て日韓兩國政府に之をなし又日本に於て大藏省理財局とあるは韓國に於ては農商工部商工局なりと云ふ



## ●農商工部大臣の示達

拓殖委員に對し

昨朝八時三十分南大門驛發列車にて渡日せし東洋拓殖株式會社創立委員に對し同會社設立に關する一切の事務を處理せしむるため農商工部大臣が一昨日與へたる示達の條項は左の如し

第一條 隆熙二年法律第二十二號東洋拓殖株式會社法を遵守し日本國政府の命じたる設立委員に共同して東洋拓殖株式會社設立に關する一切の事務を處理すべし

第二條 東洋拓殖株式會社設立事務に關しては前條の外日本國政府が其の任命したる創立委員に示達したる事項を遵守すべし

## ●千早艇長の理事廳訪問

軍艦千早は一昨日仁川に入港し同艦長は昨日上陸理事廳を訪問せり

## ●英軍艦の元山入港

七日午前九時三十分より英國軍艦キング、アルフレッド、ベドフォルド、モンマウス四艦元山に入港せり

## ●賊徒討伐情況

△慶尙南道德山守備隊特務曹長以下十名は八月三十日午前德山西方約二里内原洞にて約三十の賊を奇襲し西方に潰亂せしむ賊の死十六捕虜四名火繩銃五刀一を鹵獲す△全羅北道興德停止斥候は八月三十日北西方約一里の逍遙山にて約四十の賊を攻擊し其三を殪し火繩銃一を鹵獲す△咸鏡南道倉里坪憲兵分遣所憲兵は八月二十九日同地守備隊と協力し田灘里にて約五十の賊と遭遇し其十を殪し銃器五を鹵獲す△間島憲兵分隊の偵察隊は九月四日天佛寺山(新興坪西南約三里)の森林中にて銃四十四彈藥一萬發事務用書類被服其他を發見せり

## ●慰問袋の寄贈

愛國婦人會より韓國本部宛の通告に依れば韓國駐劄軍隊及憲兵警務官に對し本會職員にして慰問袋並に繪葉書の寄贈方を申込みたる者八月二十七日迄の分左の如しと尙繪葉書は韓國本部の調製にかゝるものにして三越商店に於て特に實費を以て精巧に印刷中にて一組の實費金二錢五厘なりと因みに韓國本部にては繪葉書調製費及慰問品の寄贈に要する費用として約五百圓を支出する豫定なりと

| 職名 | 氏名 | 慰問袋數 | 繪葉書數 |
|---|---|---|---|
| 會長 | 岩倉久子 | 三五 | 一六〇 |
| 副會長 | 一條悅子 | 三〇 | 一五〇 |
| 理事 | 德川泰子 | 二〇 | 一〇〇 |
| 同上 | 大山捨松子 | 二〇 | 一〇〇 |
| 同上 | 近衛貞子 | 二〇 | 一〇〇 |
| 同上 | 島津田鶴子 | 二〇 | 一〇〇 |
| 同上 | 毛利安子 | 二〇 | 一〇〇 |
| 同上 | 鍋島榮子 | 二〇 | 一〇〇 |
| 同上 | 岡部坻子 | 二〇 | 二〇〇 |
| 同上 | 谷玖滿子 | 一一 | |
| 監事 | 伊東美津子 | 二〇 | 五五 |
| 評議員 | 九條惠子 | 二〇 | 一〇〇 |
| 同上 | 池田亨子 | 三四 | 五五 |
| 同上 | 中山幸子 | 一五 | 七五 |
| 同上 | 戶田時子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 佐藤澄子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 山脇房子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 濱尾作子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 有島幸子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 鳩山春子 | 自製一五 | 一五〇 |
| 同上 | 關郎子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 福島貞子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 大藏松子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 松平雅子 | | 八〇 |
| 同上 | 原禮子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 岩倉[illegible]子 | 一五 | 五〇 |
| 同上 | 松平須磨子 | 一〇 | 五〇 |
| 同上 | 千家俊子 | 一五 | 五〇 |
| 同上 | 黑木百子 | 二〇 | 五五 |
| 同上 | 清浦錬子 | 一五 | 五〇 |
| 同上 | 井伊增子 | 一〇 | 五〇 |

## ●大豆鑑定價額引下

仁川に於ける大豆價格の暴落したる結果仁川稅關の鑑定價格は現市場に比し頗る高率となり[illegible]仁川商業會議所[illegible]の請願を容れ稅關に對し鑑定價格引下の交涉を開始したることは既報の如くなるが其後稅關にては委員をして精細に市場に於ける價格を調査せしめ居たるが其結果現價格は非常に高價なることを確めたるを以て之れが引下げをなすべく目下關稅局に對し問合せ中なりと

## ●掃除事務の引繼

七日法部に於て開會せし漢城衛生會々議の結果汚物掃除は來る十六日以降より漢城衛生會に引繼ぎ同會に於ては人夫四人をして巡査の指揮統督の上に清潔掃除に從事せしむる由にて之より一層行屆くべく但し徵金のみは同會の依囑により民團に於て取扱ふべしと云ふ

## ●東學會總會

去六日午後二時より鍾路壇谷洞東學會内に同會通常總會を開き出席者二十七名あり其の重なる者は會長南宮億副會長鄭鳳時及び鄭銘吉にして左の會議をなす

一、會計報告 二、事務所理の件 三、書記に慰勞金支出の件 四、地方支會認許の際義務金納付の件 五、會計檢査員の選任 六、評議員の補缺選擧 七、測量學生徒のため當分本會館を貸與する件

以上議事の上午後五時散會す

## ●嶠南教育會總會

本月六日午後三時より中部典洞に於て嶠南教育會通常總會を開き出席者七十名あり會務の報告會長辭任の件寄附水田受納の件等を議し散會す

## ●水雷艇乘組員の遭難

本月三日竹敷を發し仁川に向ひたる水雷艇第三十一號は同日午前十一時頃朝鮮海峽を航行中颶風に遭ひ九十度以上の傾斜をなしたりしが其の際艇長以下五名は激浪怒濤の爲め海中に投せられたりしも艇長及び機關長は幸ひに救ひ上げられたりしが先任將校以下三名は行衛不明となれり

## ●仁川電氣會社役員會

一昨日仁川電氣株式會社の役員會を開く筈

## ●土壌切取高調査

昨日午前中仁川富田民長は青木鐵道技師立會の上穴門先土壌切り取り調査を爲せり

## ●屠獸場の協議

昨日午後二時仁川[illegible]員會にては屠獸場の件につき協議し[illegible]

## ●特許局員の着任

統監府特許局審査官補北島友次郎氏は七日同技手手島六之助事務員人見次郎兩氏は八月何れも着任せり

## 公人私人

▲田中讓(東京石川島造船所技師) 一昨夜入京巴城館

▲松岡則以(韓國產業株式會社取締役) 昨夜入京浦尾旅館

▲柴田虎次郎(鎭南浦農工銀行支配人) 昨日仁川へ向け出發

▲佐藤六平(竹敷要港十二艇隊海軍中尉) 一昨日仁川へ向け出發

## ●近事片々

▲大勢 一變とは何ぞ曰く伊藤公威情[illegible]所ありて掉尾の大飛躍を爲すとは異な[illegible]

▲伊公 山縣系の排說祭込に激して一[illegible]心韓國統治に從事す[illegible]

▲威情 の激したるときは一時斯る[illegible]るべしされど直に戻るのが伊藤一流と[illegible]

▲若し 伊公にして威激一番對韓問題[illegible]する勇氣あらば全く掉尾の光彩燦然た[illegible]

▲斯る 事は先づ優曇華の咲くを待つ[illegible]般ならん乎希くば挾く大勢一變の來れ[illegible]

▲倫敦 に居る日本財務官は英國公債[illegible]し日本米作平年に一割八分の增收を[illegible]

▲財政 整理に加るに米作豐饒の報に[illegible]日本公債益々好況財界の前途愈々良好[illegible]

▲米作 は全く近年稀なる豐饒なりと[illegible]帝國戰後の經營に天亦幸ひ々降下する[illegible]

▲金允 植歸城して兩宮に參內し具さ[illegible]本の狀況を陳上す帝國の好意余く解[illegible]

▲祖國 に於ける近時の問題は財政整[illegible]覽會延期京都大學總長井上老侯の病氣[illegible]

▲井上 老侯の病態益々篤し侯の逝[illegible]等續々揭載せらる侯は既に角明治の巨[illegible]

▲大隈 伯の井上侯評は最も趣味あり[illegible]白し梁山伯時代に於ける閑多の趣[illegible]

▲老侯 は最も極端なる干涉家なり[illegible]臺所迄世話を燒く之が爲に部下を失ひ[illegible]

▲財政 に對して極力干涉し大藏大臣[illegible]ものゝ何時も閉口す隨分困つた爺殿な[illegible]

▲平面 には俠骨稜々幡隨院長兵衛の[illegible]ありて能く他人の捨てたる人物を庇護[illegible]

▲爽利 精悍の巨人には相違なけれど[illegible]角人格に物足らぬ所あるは其大を缺く[illegible]

▲大博 延期は東京市民に取りての一[illegible]ならん爲に反對の聲囂々として止ま[illegible]

▲如何 に秘密の漏るゝ恐れあるとて[illegible]及市長迄を出し拔きたるは政府の失[illegible]

▲菊地 男の京都大學總長は教授連[illegible]喜ばざるも世論は一般に歡迎す是れ[illegible]

▲公平 の觀察に於て菊池男の總長[illegible]と云ひ人物と云ひ資格と云ひ些の申[illegible]

▲松方 侯古稀で過ぎて男子を擧ぐ[illegible]六十四歲產期を既に經過せり老て益[illegible]

▲夫人 產期を過ぐ爲に屆出は子息[illegible]訴し漸く氏の子息として屆出を了[illegible]

▲英領 濠州にては日本の軍事費[illegible]て漸く安堵したりと[illegible]

## 美人編輯局に舞ひ込む（續）

▲白蓮花の記事に就て

尊心教育に從事しつゝ此美人は何れの處に起臥する乎、聞く先頃迄は花散樓を執る澗德義塾の一室にありしと、年尚ほ若き淑女の身として夥多の韓人等が出入せる塾内の一室孤燈の下に起臥する寧ろ大膽と云はずして何ぞや、聞く先頃既に茲を引拂ひて韓人韓某の家に寄宿せり、更に亦た轉じて今は日本人の家に引移りたりと、記者が其居所を問ひたれど、今猶ほ固く……と云はれたるは聊か怪訝に堪へず、而して韓某との關係に就ても面白からざる說あるが何が故なりや、烟の上る所必ずや火氣ありとの諺は眞理なり、京童も更に據る所なき噂はたてじ、如何に東京よりの知己なればとて韓某なる者が親切は只知己なりと云ふ關係とは何人と雖も解する能はじ、殊に利害により反覆常なき韓人の所爲として到底世人は首肯せざるべし、果して之等を打消して専心教育に從事しつゝありとの反證ありや、聞く啻に韓某なる韓人のみならず、日本人にも能く美人許り訪れるものありて頻りに世話するものもありと、李下の冠瓜田の沓、貞淑なる處女として之等の疑を引く可き傍若無人の所爲は何と解す可き乎、世の毀譽褒貶を顧慮せざる女丈夫として贊稱すべき乎、新聞記事を氣にする神經過敏の人豈女丈夫にもあるまじ、然るに本紙の記事を事實相違として非認する程に貞操淑良の女性乎、愈々疑問、如何に淸淨無垢の乙女なりと辯護せらるゝも、記者は到底首肯するに躊躇せざるを得ず、其行爲を知るものは獨り記者のみならず、何人とも疑問とせざるを得ざるべし、世は斯く鏡の如く觀察を下すにも拘らず、美人獨り淸淨無垢を自ら主張す、噫何れが眞なりや、事實を擧げて立證せざる間は矢張り疑問なり、記者は之を一個の怪美人と呼ぶの外あらじ、聞く韓某が懇切極る世話を受ける傍ら亦更に日韓軍人二三の世話も受けたりと而して此等兇くの世話人は互に世話の競爭をなし、不破と名古屋の鞘當ても斯くやと思はるゝ計りの活劇もありしとは果して眞なりや、之等も根據なき巷間の取沙汰にして事實無根とするか、事實相違の廉ありとするか、本燦たる美人が頻に貞操淑德を辯する傍より斯る傳説は頻々として記者の耳朶を打つ、總て此等の說は一々打消して其淸淨無垢を信ずることは至當なるべきか、然れども此際鞘當て連中が自ら其關係を語るに於ては或は信ぜざらんとするも能はざるなり、併し眞に其貞淑なるを證せんとならば爾來其行を戒飾して、李下の冠瓜田の沓を避けて一意專心教育に從事せざる可らず記者は茲に擱筆して暫く其行動を監視せんと欲す。

## ●境警視の視察談

松井警務局長に從ひて西北地方を視察したる境内部警視の談話中面白き數節を左に抄錄す

△警察産の西瓜　仁川の視察を終へ海州に向ふべく同地にて汽船に乗込む際宮橋仁川署長頭大の西瓜二顆を贈りて曰く此の西瓜は管内の某駐在所巡査が田園生活の無聊を慰するため試作したるものなれば警察産の西瓜にして賞味されたしと此は松井局長が地方に駐在せる警察官は餘暇を利用して其の樹等に費し趣味ある生活をなすべしとの說に一致したるものにして局長以下一行極めて愉快に感じたり

△海州は墨の産地　海州は韓國に有名なる墨の産地にして滯在中其の製造所を視察したるが規模小さく製法また完からざる如きもよく此れを指導せば地方の特産物として有望なるべきを思へり

△穀寧の基督教　穀寧城の南麓に沿ひ古城あり文祿の役對馬の宗伯此れを築きたりとの口碑あり地形優勝の地にして風景極めて佳此處に立てば穀寧一帶一眸に集るさすがは基督教の根據地と稱せらるゝ程にて教會學校病院等宏壯なる建築物は韓家屋の矮小なるに比し一際目立ちて見ゆ當日は日曜日にて新津浦渡船場附近の市場大村落等家毎に大極に十字を描ける旗を建て中以上の家は何れも安息を守りて休業し老若男女殊勝げに教會に出入せる樣宛然基督教國の觀ありき

△渡船場の弊　新津浦渡船場にて一行を送りたる馬子の一人曰く貴公等の一行は政府の官人なりと見受く何卒此の渡船場の取締を乞ふ此の渡船場は馬一頭に十錢人一名に二錢五厘の渡船料を徴す餘りに高値に非ずやと蓋し此の渡船場は曩に一進會に於て此の地方の學校經費に充つるため經營する筈なりしも學部に於て許可せざりしため渡船場の株を有せる者の獨占となり居るものゝ由にて而かも獨占的に幾多の弊害あるは此の經濟上必要なる交通機關が如斯不備不便にして渡船場のみに止まらず充分取締をなすの必要ありと信ず

△巡査の妻君は交換手　長湍駐在所に警備電話架設され暴徒の情報其の他各地方よりの通信は憲兵隊守備隊其の他の官衙に至る迄此の電話に依るため駐在せる太田巡査は事務に頗ぶる多忙を極め其の妻君電話の取次を手傳ひ夫妻相助けて公務に鞅掌するの有樣にて地方巡査駐在所の多忙はたゞに此の駐在所のみに止まらず警官增加の必要あり

△鎭南浦の人氣　鎭南浦は平壤に達する所謂鎭平鐵道敷設のため人氣稍々よろしく理事官及び稅關長の談によるに此の地は海深く波靜かに天然の良港をなし大船巨舶の碇泊に便なるは韓國第一なるべく殊に地は韓國の中央に當り世界的貿易港として將來最も有望なりと（未完）

## ●三人組の韓強盗

一昨七日午前三時龍山坊麟洞十九統五戸裵得成方に強盗押入り女衣二枚（代三圓）を強奪したり今其當時の模様を聞くに強盗は三名にて一名は大なる朝鮮刀を携へ一名はピストルを携へて得成方の墻壁を乗り越へ戸を押破りて侵入したり此物音に驚き覺めたる得成夫婦は忽ち起き上り逃げんとするを賊は逃してなるものかと夫婦を取り押へんとしたるも辛うじて得成だけは逃るゝを得隣家に飛び上り聲を限りに叫びて救ひを求めたり此聲を聞きて何事ならんと駈け付けたるは巡廻中の西部警察署の巡査及び四名の韓人なりし強盗は夫れと見るより逃走を企て元大院君墓所なる森林中に逃け込み姿を隱し遂に其蹤跡を失ひたり賊は京城附近のものならんと目下嚴探中なりと云ふ

## ●清國人の韓人毆打

中部棲洞在留清國人五家洪方雇人同國人蘇培義（二六）なる者一昨七日唐布十尺代金一圓の不仕拂者北部大安洞尹府院君内下人文啓世（二二）に對し右の懸金の請求をなしたる結果此れを毆打し微傷を負はしめたるを以て中部警察署警官は清國巡檢と立會の上輕微の犯罪なるを以て蘇より之に藥代五十錢を支拂はしめ兩方は説諭を加へて解放せり



## ◉白川劇を觀る（一）

みどり生

過般本町座に於て純劇の赤幟を翻へせし白川一座は當時老熟の技藝車輪の勉勵能く滿城の士女を惱殺し且つ中途より挑戰の布告に接せし彼れ伊東劇と激甚なる競爭を試むるや其の光景恰かも龍闘虎搏の壯觀ありしが其の後白川劇は此の戰闘のために豫定興行日限の甚だしく延期せし所より已むなく陣を退いて群山座へと乗り込み、伊東劇も亦二三の出しものに最後の花を飾りて一時眼の先きなる龍山へと陣取りしかば爰に漢城の劇界は寂として何等の見るべきものなく宛かも百花繚亂たる春の眺より金風淅瀝たる肅殺の域に進へさる秋の氣象の如くなりしが頼て圖らずも白川劇は群山座を引き揚ぐるや又も旗を上げて當地に乗り込み元の根城たる本町座に再度の旗を翳することゝなり既に過ぐる二日より花々しく舞台開きを爲すに至りぬ、思ふに今回の乗込みは此の一座が韓國に於ける觀客の趣好を充分に解得せると共に從つて舞台上の意氣又は相互技能の感應等に多大の實驗を經たるを以て其の演技の從前に比して幾段の圓熟を來せしは勿論又其の藝題の如きも嶄新にして奇抜なるものを出すに至るべきは是れ又言ふを俟たざる所なり、果せる哉去る五日の狂言「新羽衣物語」の如きは近來に見ざる目新らしき出しものにして大に觀客の眼を喜ばすものあつたり今左に個人々々の藝術に就き聊か批許の筆を試みんかな




▲一井の菊枝　マヅ總体に於て無難なり言ふ迄もなく菊枝としての性格は飽迄も溫順にして寡言加へて一家の紊亂と父の重体とに陥らしむるものなるを以て徹頭徹尾沈み勝ちに心配さうな態度を持せざるべからず優は此の點に於ては一見成効せしやうに思はるれど惜むべきには悲哀の心を發揮する際少しく表情の不足なると又神ヶ谷なる叔父に對する慇懃の情に充分に徹底せざるの憾みあり但し漁師島藏宅の場に於ける仕草は見上げたもの確かに微妙を穿ち居れり

▲秋山の石沼　言語は明晰なれど凡ての點に於て硬骨に聞ふるが甚麼かと氣遣はる舞台上の所作は馴れたもの少しもコセつく跡なしもし疵を言はゞ菊枝に執心して戀に狂ふ男としては之又少しく表情に欠くるの嫌あり

▲南郷の神ヶ谷　ナカ〜達者な腕前なり士臺斯ういふ役は優に取つての箝り役正標を仰顏堂々と理を理とし非を非として先方を説破し辨舌尚綽々として餘裕ある如きは他の一座には滅多に見られず流石は緩なればこそ些の疵もなく無事に遣つて除けるなり菊枝を思ふ叔父の眞情充分に溢れ又宮城家病室の場の談判は觀客をして一方ならず實感を動かさしめたり



## ●男女の睦言

去る六日夜一時頃西小門に沿ふたる城壁の上手の所にて何にやら年若き男女が密々と囁き居る樣子の如何にも變なるより何れはお定りの自然主義者ならんとは思ひながらもソツと身を小影に潜めて男女の樣子を窺ひ居りしに男の聲として「春江さん僕は必ず世間に有り振れた一時的の玩弄物に害嫌を愛するのではありません僕は終生春江さんと苦樂を共にする決心です……」といふと女はさも嬉しさに堪へ兼ねしこいふ言葉にて男の側に縋り寄り「中野さん今のお言葉は本統ですか、若し本統ならば妾は心から嬉しうムいます、よソレでは妾は今日から貴郎の妻ですツ……」とイキなり男の手をば握りし氣配なりしが離て彷の小影に誰れやら人間の潜み居るを感付きしらしく周章てゝ南大門の方に立ち去りたるが其の後姿は男女共確かに見覺のありとの味もソツ氣もなき投書のまゝを

## ●奇美人の行衛

先頃の紙上に記せし奇美人佛人ドントンの思ひ者キクはドントンと仇し契りを結びし後昌德宮附近開花洞なるドントンの家にありて榮華の夢に耽りしも束の間にて夏の夜の夢醒め易く何時しかドントンの……たキクが他に仇し心のありてか此頃に至りドントンとの縁を切り今は長谷川町一丁目三十三番戸なる某方に隱れ秋風の日々に冷かなるを嘆ち居ると云ふ

## ●一圓の炙

大坂生れ現住所御成町八十九番戸中根渡藏（三三）は昨日自宅北側街路に於て商品を陳列なし死斷を以て機械を回轉し多くの人を集め通行上妨害ある廉より取調たるに無屆無許可の商賣と明り科料如件



## ●斷髪排斥の通文

韓國警視廳に於ては曩きに人力車取締規則を發布したるが各部警察署に於ては此趣旨に依り取締りつゝありしが車夫は總て斷髪すべき旨訓諭したるにも拘らず其斷髪を厭忌する車夫等は之れに反對し中部廟洞の車夫は決して斷髪すべからずとて非斷髪同盟組合を設けんと通文を發したりと云ふ

## ●誰れが毀したか

中署銅橋洞二十八統四戸自轉車營業者翼相は一昨日午後七時三十分より同九時三十分まで中部二宮洞東興館内淸國人玉照忠（三二）に一輛の自轉車を賃貸せしが其自轉車が間もなく破壊したるより翼相は照忠に向て損害額七圓を要求したるに照忠は自分が毀したるにあらず其懇意にする大和町一丁目三百二十五番戸深堀一郎（十七）が乗り廻りたる時に斯る損所を生じたるものならんと主張して罪を戸深に被りつけんとせしも堀一郎は否や自分が乗りたる時までは毀れ居らずと何らが毀したるものか水掛論で埒開かざれば一同南部警察署へ出頭して其審判を乞ひたるに結局照忠と堀一郎の二名にて半額宛を負擔して賠償することゝなりて事濟みたり

## ●精神病者のウロ付

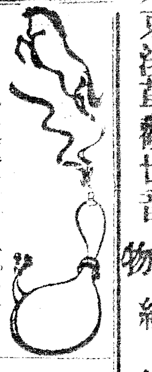
昨日午前三時頃三十五六の男新町を徘徊し居るを新町派出所の巡査が認め胡亂な奴と引捕へて取調べたるに此者は石川縣江沼郡大聖寺町士族川崎喜一郎（三六）と云ふものにて客月二十八日北米倉町下宿屋鬼頭靜方へ投宿し本月六日同方を立去りたる以來定りたる宿もなく毎日此の如くして人家の軒下などに寢込み居たりと申立てして其言語動作等に依り察するに精神に異狀を生じ居るものゝ如くなりしより兎も角其事實を確めんと鬼頭を召喚し訊問したるに喜一郎の申立し所と相違なく全く精神に異狀を生じ居るより其保護方を鬼頭に托し引取らしめたりと云ふ

●腸窒扶斯患者　龍山大林組原友吉方平城貞次郎（二三）は去月十五日腸加答兒に罹り其後大韓醫院にて療養中なりしが五日午前腸窒扶斯と診定され引續き加療中なり

## ●天氣豫報（自八日午後六時 至九日午後六時）

南の風曇但し少雨

八日午前六時各地氣象概況　今朝一低氣壓は北清より急進し來り將に北部に上陸せんとする模樣ありこれを以て該地方は風力強く降雨しつゝあるも南部は尚は晴天なり



# 新講談 富本半平の身上(二)

タット此處やア氣が付か無なかつたサア一ツ大きなヤッでと吟中は如才無くコップをさし夫れにナミ／＼と日本酒をついやると憚りさまと言ひながらグッ／＼と咽喉を鳴して一ト息に飲み干して何處を風が吹くどいつた鹽梅でヂロ／＼として居るのです女にしちやア珍らしいタマですヂ少し醉つて來たなと見て取つたので吟中は姐さん折入つて俺から爾さんに賴があるんだが……と手前が金がいる一件を大略話した末に實は此方から頼とするのが道ですが此當はそれ何の間柄でも金の事ですから言ひ出し惜いので俺から[れ]すがり申す樣な譯合なんだが……如何です何とかして下さる譯にや往きますまいかと相談を掛けて見ると先程からグビリ／＼を續けながらハア／＼といつて聞て居た黒姐さんうウチ……と少しは考ろかと思の外た賴とにふなアそんな事なんですかイ、エもう宜うムいますつて大よしですと至極心持宜く請合つて與ました宜うムいますつて大よしでさアと請合ふ事は請合つて與れましたが黒姐さん酒ばかり召し上つて居て更に其請合つて與れた金を出さないのです手前は氣になつて堪りません然し其内には出して與れるだらうと今か今かと待つて居ると御機嫌斜ならずヨッぱらッちまいまして手此女持前のイチャツキといふのがソロ／＼始まつて參りました實の所を白上致しますが手前も此爲に逃を打つて了た譯でして夫りやア容易な事でうけ堪ねが出來たもんぢやアありません手前が關係をつけます前に彼のうら豪の者の落語家の圓遊さんや俳優の團八さんでさへ一度でコリ／＼したといふタマなんですから擦し下さいでさア

何程待つて居ても金を出しそうにもないから此りやア餘り酔つちまつて忘れて仕舞つたのではなからうかと手前は姐さん夫れぢやア濟みませんが先程願つたものを……と催促するとイ、エもう心配なんかしなさんな妾が請合つたからにはキット相間に合せますといつた所で今此處に持合せては居りませんが我家へ歸りやア如何にでもなりまさア安心してもう一ツ重ねよ……さカラツキシ正體が無いそりやアれ爾さんがウンといつて承知をして下すつたのだから無論間違はありやすまいが……れ爾さんの樣にそう宜い機嫌になつちまつたんぢやア仕方が無い……如何です此家は一先づ切り上げて極めるものだけは極めてから又改めて飲み直そうぢやアありませんか……と側に居た吟中も少々テコズりの氣味で口を添ぬるとそうすそれも宜いでせう




●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金廿五錢▲三ヶ月前金七十錢▲六ヶ月前金一圓四十錢▲一ヶ年前金二圓五十錢▲郵税一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲四號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門通 電話六六三番